

●兵庫教育大学 学校教育研究科

「小学校英語活動指導者・研究者の育成」の事例 <人社系>

具体的に何を実施し、何が困難であったのか

インターンシップ科目の開講に関して、「小学校英語活動インターンシップ」では、近隣地域の協力校の確保が困難であった。また、「海外教育体験実習」においては、海外の受入大学との連絡・調整のほか、教職員による現地への学生引率にかなりの負担を要した。

苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか

外国語活動は、学校現場にとって新しい教育的課題であるために、当初、協力校として「小学校英語活動インターンシップ」を履修する学生を受け入れてくれる学校が少なく、協力校の確保が難しかった。また、「海外教育体験実習」については、年度末の実施であったため、本学の入試時期と重なり、現地との連絡・調整や、現地まで学生を引率できる教職員の確保が困難だった。

どのように対応し、そのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか

「小学校英語活動インターンシップ」については、本学教職大学院研究・連携推進センターの協力を得て、大学近隣の教育委員会を通じて、各学校への協力依頼を行った結果、インターンシップの実施に必要な協力校を確保することができた。また、「海外教育体験実習」については、プログラム支援期間中に雇用された特命教員を配置することで負担を軽減できたが、本プログラム支援が終了し、特命教員の雇用ができなくなった現在、教職員への負担が問題となっている。このことについては、本学全体の国際交流や学生の海外派遣の取組の中で検討する必要があると考える。

これらの科目は、国内外の教育現場で外国語教育を実践できる貴重な場として履修学生の意欲向上にもつながっているため、実施形態の検討・改善を優先的に図っていきたい。